『キリストの名のために』（ペテロの手紙第一 4 章 12-19 節）2022.6.26.

＜はじめに＞ この箇所は「あなたがたを試みるためのあなたがたの間で燃えさかる試練」(12)を不審に思う人に書かれています。今までとは違う、何か変わったな、こんなことなかったのに、と感じることや気づくことがあるでしょうか。どうしてそれが起こって、どんな予兆や意味なのでしょう。

Ⅰ　私たちの間で起こること

①当然が当然でなくなる

ここ 30 年余の間に私たちを取り囲む社会と環境は大きく変わって来ました。かつては当然とされて来たことが、次々と崩れ去っています。どんなことが思い起こされますか。それによって、私たちはこれからどうなるのだろうと不安を抱えています。

②教会とクリスチャンも同じ

かつてのようではない状況が、教会の中にも広がっています。外からの圧力だけでなく、内に抱える課題もあります。教会に来てはいけない、招くこともできない、礼拝を中止する、という状況に私たちは戸惑いを感じ、まだすべてが解決したわけではありません。

③80 年前の出来事(1932 年・昭和 17 年)

6 月 26 日早朝に、突然牧師たちが一斉検挙され、多くが拘禁されました。役員・信者も取り調べを受け、教会は解散・閉鎖となり、礼拝はおろか教会への出入りさえ禁じられました。拘禁は 2 年に及び、4 名の牧師が獄死しました。当教団創設者たちも含まれていました。

Ⅱ　苦しみの中で思い起こす

①キリストも通られた(13-14)

イエスはキリスト(=救い主)として、圧倒的で理想的な勝利と祝福で諸問題を見事に解決したでしょうか。イエスはかつて「多くの苦しみを受け、殺され、3 日目によみがえらなければならない」(マタイ 16:21)と語られ、それは神のみこころでもあったのです(イザヤ 53:10)。

②自らを探り、きよめる(15-16)

災いや試練に会うと、原因・理由を探ります。15 節のリストの「他人のことに干渉する」とはどんなことを指し、何の問題に注意すべきなのでしょう。先の 3 つとの共通点はありますか。これらの故でなく、純粋に「キリスト者として苦しみを受けるなら、恥じることはありません。」

③さばきは神の家から(17-18)

試練・迫害をもたらす「世が、時代が、社会が悪い」と言いたがる傾向がありますが、神の家・教会は救われて当然なのでしょうか。神の目はまず教会と信者に向けられています。あわれみ豊かな神の大きな愛のゆえに、私たちが救われたのです(エペソ 2:3-5)。

Ⅲ　試練の中を歩む者への勧告

①いっそう喜びなさい(13)

イエス様が私とともにおられ、歩んで下さることは、クリスチャンの大きな慰め・励ましです。では、私たちがイエス様とともに進み行く喜び・誇りは感じているでしょうか。それは苦難の中でも消えないと、主も(マタイ 5:10-12)、パウロも呼び掛けています(ピリピ 1:27-30)。

②神をあがめなさい(16)

自分を探って、なお神の前に責められるところのないにもかかわらず、キリストにつく者として苦しみを受けることがあり得ます。主が予告されたとおり(ヨハネ 15:18-27)で、使徒たちも経験しました(使徒 5:41)。先回りして備えていてくださる神をあがめるのです。

③真実な創造者にゆだねなさい(19)

私たちとて、かろうじて救われるに過ぎません(18)。私たちが受けている苦しみ・試練・困難のすべてを、創造者であり支配者である神はご存じです。今も私たちを愛し、あわれんでくださり、全能の御手をもって支えてくださいます。その恵みの御手に委ねましょう。

＜おわりに＞ かつて苦しみと試練の中を通った聖徒たちが、それでも信仰を手放さずに忍耐して潜り抜けてくださったことによって、私たちにもこの救いが届きました。この道がキリストの歩まれた道です。その先にはキリストの栄光の現れ(13)が約束されています。(H.M.)